

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2020年
4月13日
第83号



カキドオシ（シソ科）

園内の温室横、池の縁、資材倉庫前に、一見してシソ科と想像がつく紫色の花が一面に咲いているのが見られます。日本全国の道端、空き地の湿った場所に群生する蔓性の多年草です。筒形の花を茎に段々に横向きに付けるのはシソ科の特徴の一つです。名前を漢字で書くと「垣通し」、匍匐茎で横に広がり、その勢いが垣根を突き通すほどということで名付けられたとか。他に丸い葉が連なるように見えるので連銭草（レンセンソウ）、葉に子供の癩の虫を抑える効果があることで「癩取り草（カンドリソウ）」等の別名もあります。上品な薄紫をベースに、色の濃淡で施された模様の美しさは雑草扱いされるのが可哀そうなくらいです。全草を乾燥したものを、植物の別名と同じ、連銭草という生薬名で、子供の癩の虫や、尿路結石、胆石に対する民間薬として用います。

ボタン（ボタン科）

園内、第一圃場で径が20cm近くの大きな花が見られます。中国原産で平安時代に薬用として渡来した落葉低木で、鑑賞用、薬用に広く栽培されています。ちなみに同属のシャクヤクは草本です。その大きく高貴な花は、中国では「花王」の別名もあります。種々の園芸種が作り出されており、花色は白、紅など様々（主に鑑賞用で薬用とならない）、冬に咲く寒ボタンもあります。ただ、ボタンの漢名「牡丹」は、中国の唐代以前、日本でも飛鳥時代以前は、現代でのヤブコウジ属植物という別の植物を指していました。

ボタンの根の皮を原料にして、生薬、牡丹皮（ボタンピ）が生産され、活血化瘀薬として月経前症候群多用される加味逍遙散や、桂枝茯苓丸、大黃牡丹皮湯などの漢方処方に配合されます。

今、こんな草木が楽しめます！！